

■肢体不自由支援学校における実践事例

マルチメディアDAISY図書は 学校のどのような場面で活用できるのか

東京都立八王子東特別支援学校
羽鳥 洋美

本校は、肢体不自由のある子どもたちが多く在籍する特別支援学校です。昨年度より、わいわい文庫利用研究校となり、子どもたちの読書活動の中に、マルチメディアDAISY図書が仲間入りしました。

マルチメディアDAISY図書は、貸与されたタブレット端末（iPad 1台、iPod10台）で利用しています。2012年度4月にはタイトル数も増え、今では、96タイトルを読むことができます。

マルチメディアDAISY図書導入1年目の昨年は、6名の教員が中心となり、端末のアクセス制限、マニュアル作成、貸出ルール作成などの初期準備後、5月から貸出開始しました。

昨年の活動内容については、伊藤忠記念財団が2013年に発行した「わいわい文庫活用術①」（14ページ参照）に掲載されていますが、ここでもほんの少しだけ紹介します。

本校は、肢体不自由のある子どもたちを対象とする特別支援学校なので、

通学手段はおもにスクールバスです。片道1時間以上かけて通学する生徒もいます。

そこで、スクールバスでの読書も視野に入れ、貸し出しを開始しました。スクールバスの中でマルチメディアDAISY図書を使って読書した子どもは、「デージーがないときはバスの中は退屈だったけれど、今は楽しい」との感想を語ってくれました。この子どもは、その後、総時間6時間の図書も読み進めるなど、マルチメディアDAISY図書によって読書好きに磨きをかけている最中です。

とはいえ、昨年度のマルチメディアDAISY図書貸出数は、90。この数が多いか少ないかは判断しかねますが、マルチメディアDAISY図書の再生方法を知らない教員は、現在でもいます。マルチメディアDAISY図書の良さを周知できていないという現実が、本校にはあります。

そこで、マルチメディアDAISY図書

導入2年目の今年度は、マルチメディアDAISY図書を理解し、どのような場面で活用することが、子どもたちの読書活動を広げられるかについて実践をすること、そして、明らかになったマルチメディアDAISY図書の有効性を、全校に伝えていくことを目標として掲げ活動してきました。

以下、今年度の活動について報告します。

今年度の研究テーマと目的

(1) マルチメディアDAISY図書は、学校の中ではどのように活用できるか

昨年度は、上肢の操作性に困難がある子どもが、スクールバスの中で大好きな読書をするために、マルチメディアDAISY図書を活用する実践を積みの中で、マルチメディアDAISY図書の有効性の一つの形を確認しました。

一方、集団授業やその他の学習場面では、マルチメディアDAISY図書を有効に活用することができませんでした。

マルチメディアDAISY図書は、端末と大型テレビ、スクリーンなどと接続させることで、よりダイナミックに読書することが可能です。また、ハイライト、スピードや間の調整など、個々に合わせてカスタマイズも可能です。

そこで、このようなマルチメディアDAISY図書の「よさ」を活かしながら、読書を楽しむには、どのような場面で

どのように読書を進めるのが有効か。このことについて、実践を積みの中で確認することで、マルチメディアDAISY図書の活用方法を探ることを目的としました。

(2) マルチメディアDAISY図書は、どのような子どもたちに有用か

読書の形はさまざまです。一人で読む従来の読書、読み聞かせといった読む側と聞く側の双方向の情動の交流を深める読書、それから授業で教材として行う読書。

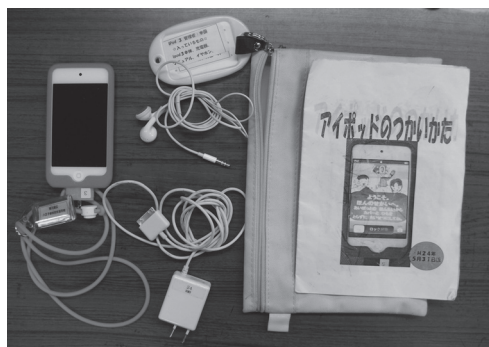
読書の多様な活用場面の中で、マルチメディアDAISY図書がその特性をもっとも生かせる場面はどのような場面か、言い換えるならば、マルチメディアDAISY図書は、どのような子どもたちにどのような方法で活用することが、効果的な読書活動や学習につながるのかを探ることを目的としました。

研究の準備

(1) マルチメディアDAISY図書を管理する方法

専用の袋に、本体、充電器、マニュアル、イヤホンを入れ、職員室のカギのかかるロッカーで保管しています。マニュアルの内容は、「わいわい文庫活用術①」(58ページ参照)に掲載してあります。昨年度の貸し出しは、90件。今年度は、2013年12月現在で、

70件の貸し出しをしています。



(2) マルチメディアDAISY図書に関する講習会の開催

5月、3回に分け、子どもたちと教員を対象に、マルチメディアDAISY図書とは何かについて、実際に機器を操作しながら学習する機会を設定しました。



マルチメディアDAISY図書活用の実態と効果

(1) 一般的な読書としてのマルチメディアDAISY図書の活用

① 『シノダ！ 魔物の森のふしぎな夜』をスクールバスで楽しむAくん
絵本を読む子どもが多いのですが、

長編の『シノダ！ 魔物の森のふしぎな夜』を読み進めている子どもがいます。Aくんは、前述のスクールバスで通学中読書している子どもです。上肢の操作性に困難さがあり、本を持ったり、ページをめくれない子どもですが、バスに乗車する際、担任の先生に「デージーセットしてください」と依頼し、読書を楽しんでいます。



② 読書週間にマルチメディアDAISY図書で読書するBくん

読書週間には、準ずる教育課程に在籍する中学2年生にマルチメディア

DAISY図書での読書をすすめました。Bくんは、上肢の操作性と見え方に困難さを抱えています。先日、Bくんは、つぎのようなことを私に言いました。

「小学部のころから、“本を読め、本を読め”と先生にずっと言われてきたけれど、本を読むには、本を出してもらって、ページをめくってもらわないといけない。それをいちいち依頼するのが面倒くさくて、読書が嫌いになった。それに、ページを押さえたり、読むことに必死で内容がなかなか頭に入ってこない」。

上肢の操作性、見え、読むことによる理解などの困難さから、Bくんにとって、紙媒体の読書は、心身ともにストレスを生じるものだったのです。彼は昨年から、マルチメディアDAISY教科書を使っています。彼は続けて私に言いました。

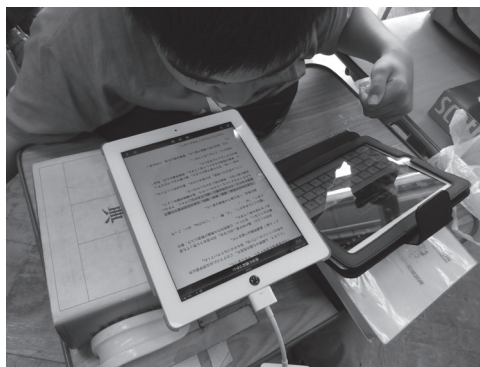
「デジター教科書になってから、読書は嫌いではなくなった」。

今では、家庭で予習をすることができるので、授業ではとても生き生きと音読や読解をしています。

マルチメディアDAISY図書での読書は、iPadでマルチメディアDAISY教科書を活用しているBくんにとっては、至極当然な読書の形なのです。

iPodを渡し「この中から本を選んで読んできて」というと、つぎの授業では、やはり生き生きとした表情で、

あらすじや感想を発表していました。



(2) 学習場面でのマルチメディアDAISY図書の活用

①文章の意味を理解しながら読む学習をマルチメディアDAISY図書で行うCくん

中学3年のCくんは、単語を、「す・い・よ・う・び」といったように、一文字一文字区切って読みます。上下肢の操作性に困難さはなく、ダンスや教員の動きの模倣がとても上手です。iPadの操作はとても上手で、興味関心も高く、学習という自覚なく、楽しく絵本を読んでいます。

『あいうえおにぎり』は、Cくんの国語の学習には有効です。読むスピードをゆっくりにし、さらに間をかなり多めに設定することで、『あいうえおにぎり』を聞きながら・読みながら・絵を確認しながら、読んでいます。

こうすることで、単なる文字を音に変換することが求められる音読練習というだけではなく、同時に意味も理解することができます。

文字だけでは、それがどんな音なのかわからなかったり、また、何を意味するのかイメージしづらかったりするCくんですが、音声読み上げや、絵が出てくることで（もちろん、ハイライト機能は言うまでもありません）、精神的にも楽しく本を読むことができます。もちろん、この学習の先には、読み上げ機能を消音にして読んだり、最終的には絵もなくしたところまで、おにぎりをイメージしながら本を読んでいくといった段階が期待されていますが、初期の段階では、Cくんにとっては、マルチメディアDAISY図書は適した教材の一つといえるのではないのでしょうか。



② 休憩時間に教室でマルチメディアDAISY図書を大型テレビで活用

肢体不自由特別支援学校の子どもたちは、生活の多くの部分で介助を要します。一人ひとりの介助に要する時間が異なることや連絡帳記入などのさまざまな仕事で、どうしても大人が十分にかかわることができないすきまの時間ができてしまいます。

このようなときに、マルチメディアDAISY図書で絵本を読むことができました。大型テレビにiPodを接続することで、グループの生徒全員が、同時に絵本を楽しむことができました。

わいわい文庫のタイトルの中には、同じ『11ぴきのねこ』でも、絵本と同じものと「絵のみ、紙芝居風」とタイトルに入ったものがあります。皆で休憩時間に楽しむときには、この「絵のみ、紙芝居風」を活用しています。声優さんの読みに、生徒たちは、「へー」「うわー」「はいっ！」と声を上げながら、まるで、登場人物の一員になったかのように聴き入っています。



今年度の活用実態から見えたこと

(1) マルチメディアDAISY図書は、学校の中ではどのように活用できるか

① すきまの時間を読書の時間にする活用
読む人がいて本があるならば、それは目の前にいる生身の人間が、聞き手の表情を見ながら読むことが最も効果的でしょう。

しかし、前述したように、重度の肢体不自由のある子どもたちが、すきま

の時間や休憩時間、車いすに座って特別にすることもなく時間を過ごしているときに、マルチメディアDAISY図書を大型テレビに接続して読み聞かせをすることで、ただ待っていた時間が、読書の時間に変わったのです。

子どもたちは本当に読書が好きです。車いすを操作して、自分で本を取りに行ける子どもたちは、ほんの短い休憩時間に本棚に行き、本を覗き込んだり、じっくり読んだりしています。マルチメディアDAISY図書を使うことで、重度の子どもたちも、この体験を得ることができました。

②学習の場面での活用

Cくんの事例で見たように、ハイライト、読み上げ機能があること、読む速度・間などがカスタマイズできること・画像があること、これらマルチメディアDAISY図書の機能は、学習場面では大きな効果を生みます。

Cくんは、同じタイトルを何回も読むことで、読み上げ機能より先に読むことができたり、また、読みながら「ふーん」といった表情をするなど、絵で内容を確認しながら読むことができています。

学習のある段階で、この機能を、実態や状況に合わせてカスタマイズしながら活用することで、学習効果を生むことができています。

(2) マルチメディアDAISY図書は、どのような子どもたちに有効か

①上肢の操作性、見え方、文字を読むことによる内容理解に困難さがある子どもたちに有効

前述のAくん、Bくんは、紙媒体の本を一人で読むことはできないため、紙媒体による読書を強いられることは、心身ともにストレスを生みます。そもそも、読むことに必死になって内容が理解できないとなれば、それは読書とは言えないのではないのでしょうか。

そういった子どもたちには、マルチメディアDAISY図書を、iPad、iPodなどのタブレット端末で読むことは、大変有効です。Bくんは、紙媒体の文章に直面した時、周囲の人に「読んでください」と依頼し、聞くことで理解します。

もちろん、今後も、そういった場面は多々あるでしょうが、マルチメディアDAISY図書のタイトルの中で読みたい本があれば、一人で気軽に読書をすることができます。

②単語→音への変換、単語→イメージが困難な子どもたちに有効

Cくんの事例で見たように、単語を音に変換することや、単語を見てイメージを思い浮かべることに困難さがある子どもたちに、マルチメディアDAISY図書の機能は有効です。前述のように、Cくんは、読み上げ機能、ハ

イライト機能、絵などをてがかりに、単語の意味を確認しながら、一人で単語を音に変換させることができるようになっていきます。

今後の課題

(1) 周知の問題

導入してから1年経過したこともあり、活用方法は昨年と比較し多様になりました。とはいえ、貸出数に伸びはありません。5月に3回、マルチメディアDAISYについての講習会を実施、さらに7月には、マルチメディアDAISY機能の有効性について、実践を見せながら周知する場を設定しました。

しかし、いまだにあまり知らない方もいます。今後は、「読書郵便（読んでほしい人を特定して本を届ける）」や、「マルチメディアDAISYで本を読もう」月間の設定、貸出しやすい環境の設定などで、周知をしていきたいと考えています。

(2) タイトル数の問題

CくんがマルチメディアDAISY図書を使って文字学習をするのに最適な絵本は『あいうえおにぎり』です。

また、重度の子どもたちが絵本を読むときに必要な要素は、「繰り返しのフレーズ」「オノマトペ」「テンポやリズムの良い文」です。

たとえば、『おおきなかぶ』のような絵本です。このように、さまざまな子どもたちのニーズに合った本がたくさん入ると、さらに活用しやすくなります。図書館でたくさんの本に目をキラキラさせるように、端末内の本棚を見て心がうきうきするくらい、マルチメディアDAISY図書もたくさんタイトルが並ぶとよいなあと思います。

さいごに

「マルチメディアDAISY図書をタブレット端末で活用する」。このことは、私にとって、とても大きなことでした。私は、マルチメディアDAISY図書についてまったく無知だったのですが、このような機会を得ることで、生徒が変わる姿を見ることができました。

つかえつかえ本を読んでいたBくんが、家庭で一人で読書をし、翌日生き生きと音読をしたり、読解をする姿、また、Cくんが、読み上げ機能より先に単語をすらっと読んだり、「コロケ」の読み上げに絵のコロケをしみじみ見ていた姿、こういった姿に直面した時、タブレット端末+マルチメディアDAISY図書の有効さを本当に感じました。

一方、全国的に見ても、入手可能なマルチメディアDAISY図書は598タイトル(千葉県立西部図書館調査より)であることから考えると、タイトル数が

なかなか増えないその要因をなんとかしてクリアできないものかと考えます。

とはいえ、私たち現場の教員にできることは、マルチメディアDAISY図書を、それを必要とする子どもたちに適切に用意し、有効に活用していくこと、

また、その実践を積み上げ周知していくことだと考えています。

最後となりますが、マルチメディアDAISY図書の製作にかかわるたくさんの方々に感謝の意をお伝えして、実践報告を終わります。

